国語科

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2022-06-28
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00066566

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



国語科

谷口 仁 橋本 正恵

松原 美佳

助言者 折川 司(金沢大学)

1. Society5.0に向けた教育を進めるに当たって

昨年度より本校では、研究主題を「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力の育成」と定め、Society5.0という新しい社会を見据え、実社会とのつながりのある授業実践やSTEAM教育の実践を試みてきた。その取組の中で、より実社会の問題解決場面に近いプロジェクトを作り出す手立てとして、STEAM教育のAをLiberal Artsと捉えることとし、STEM領域以外の教科等も協働して資質・能力の育成に当たることができるよう共通理解を図り、全ての教科等が連携して実践に取り組んできた。

さらに、本年度より研究の副題が「新設教科『創造デザイン科』の提言とSTEAM教育を踏まえた教科等横断的プロジェクトの作成を目指して」となった。これは実社会とのつながりをさらに意識し、複数の教科で多面的・多角的に学習を行い、創造的な問題解決能力を育成することをねらいとしたものである。教科の枠にとらわれない学習課題を解決していくためには、自ら考え、伝え合う力を養うことがこれまで以上に重要になる。このことは人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う国語科の目標と合致しており、本校研究において国語科の果たすべき役割であると考える。

2. 資質・能力の育成に当たって

(1) 教科等として育成する資質・能力について

本年度、「本校が定めるSociety5.0を主体的に生きるための資質・能力」を以下のように設定した。

デザイン思考	文章や情報を読み解く力
イノベーターのマインドセット	持続可能な社会を志向する倫理観・価値観
より良く生きようとする態度	対話する力
多様性の尊重	論理的思考
実体験を通じて醸成される感性	批判的思考

表1 本校が定めるSociety5.0を主体的に生きるための資質・能力

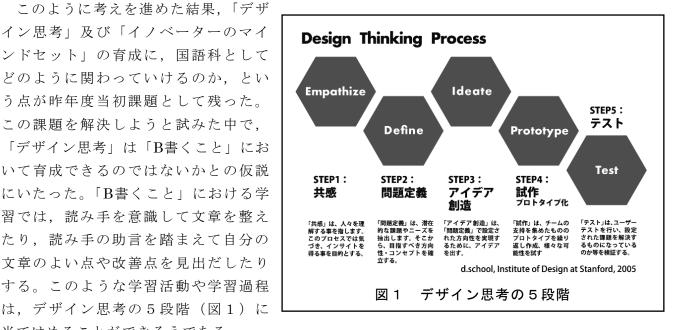
これら十の資質・能力について考察を行った。『中学校学習指導要領』前文には、「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と示されている。このことから、「より良く生きようとする態度」「多様性の尊重」「持続可能な社会を志向する倫理観・価値観」については、全ての教科で育成を目指す資質・能力と言える。また、「対話する力」は国語科の内容の一つである〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」において、「文章や情報を読み解く力」は「C読むこと」

において育成できることは、当然のことと言える。さらに、「実体験を通じて醸成される感性」「論 理的思考」「批判的思考」は、3領域いずれにおいても、あるいは複合的に育成し得る資質・能力 であると考えた。このことは、『中学校学習指導要領 国語』(以下、指導要領)に見ることができ る。例えば、指導要領第3学年には「B書くこと」においても「文章を読んで考えを広げたり深め たりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと」「自分の立場や考えを明確に し、相手を説得できるように<u>論理の展開などを考えて、話の構成を工夫する</u>こと」「文章を批判的 に読みながら、<u>文章に表れているものの見方や考え方について考える</u>こと」が示されている。これ らと同様のことは、他学年、他領域においても見ることができる。※下線は執筆者による

どのように関わっていけるのか、とい う点が昨年度当初課題として残った。 この課題を解決しようと試みた中で, 「デザイン思考」は「B書くこと」にお いて育成できるのではないかとの仮説 にいたった。「B書くこと」における学 習では、読み手を意識して文章を整え たり, 読み手の助言を踏まえて自分の 文章のよい点や改善点を見出だしたり する。このような学習活動や学習過程 は、デザイン思考の5段階(図1)に

当てはめることができそうである。

イン思考」及び「イノベーターのマイ



そこで、今年度は「デザイン思考」の育成を、本校国語科の研究の中心に据えることとした。 また、昨年度は教科内での検討・分析を進めたが、今年度はSTEAM教育を踏まえた教科等横断的 プロジェクトにおける検討を行った。どの単元で、どんな教材で何を考えさせ、どのようにアウト プットすることで、「Society5.0を主体的に生きるための資質・能力」を効果的に育成することが できるか研究し、育成する資質・能力をプロジェクト全体で測っていくことを見据えた評価など、 教科等連携の在り方を検討することにした。

(2) 関連・連携を図った教科等について

1年「祈りと願いの企画展」

これまで美術科と連携して、物語文から感じ取ったことを作品として表現する活動を継続的に 行ってきた。今回は社会科、美術科と連携して、文化や作品にこめられた人々の思いを読み取り、 作品として表現・展示する教科等横断プロジェクトに参加した。「作品の解説文を書こう」という 単元を設定し、「作り手の思いを、より明確に伝えるための解説文を書く」学習活動を行った。

「根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点 を見出すこと」をねらいとし、互いの文章を助言し合い、交流を通して解説文の改善を図った。こ のとき,「展示を見る人により深く作品を理解してもらう」という目標を明確にして, 文章を分析 するための観点や, 使う言葉や文章の構成を考え, 解説文を再構築させることで「問題を解決する ために、認識されていない内なる課題を見出し、それを解決するための最適な手立てを考えていく」 デザイン思考の育成を図った。また、展示の鑑賞者という形で読み手を明確にして、文章を考える 上での視点や表現方法、互いの文章を助言するうえでの観点等の参考とし、目的に応じた書き方を 考える機会を設定した。

2年「15秒で分かる石川県」

本プロジェクトは、社会科の地域調査の学習との横断的な学習である。社会科では、中部地方に関する学習を踏まえ、石川県の現状や良さについて学習を行う。そのまとめの段階を引き継いで、国語科では単元「15秒広告で石川のよさを伝えよう」を設定し、石川県の良さを伝える15秒広告の作成を行う。これまで、「書くこと」の学習では、自分の考えを文章にする活動を重ねて行ってきた。今回は、15秒間と短い時間を設定することで、インパクトのある分かりやすい表現について、理解を深める機会としたい。中学生に人気のある、SNS等の投稿動画では、数年前より15秒の短時間のものが注目を集めている。一見、短いように思える15秒間でも、伝えたいことを盛り込むことができることを知り、より人の目を引き、考えが伝わりやすい表現について考えることをねらいとした。また、日常生活で目にすることの多い、デジタルサイネージの形式を取り入れることで、より実生活で活用ができる表現について考えられる活動になることをねらった。

本校が定めるSociety5.0を主体的に生きるための資質・能力の育成に関しては、単元全体を通して、デザイン思考の育成をねらっている。伝える相手を意識して、文章を整え、試行錯誤して完成に迫る流れの中で、目的に応じた表現について考える学習を構成した。

3年「俳句の魅力をTシャツで外国人にアピールしよう」

本プロジェクトは、国語科、数学科、美術科、英語科との横断的な学習である。昨今、外国人留学生が日本語や日本の文化を取り入れたTシャツを着ているのを目にすることは多い。しかし、我々日本人からするとなぜそれを着ているのか、Tシャツにデザインされた言葉を見て首をかしげることもある。そこで、誰にとっても「かっこいい」と思えるようなTシャツを制作し紹介する学習を通じて、日本の素晴らしさを再確認させ、我が国の伝統・文化を愛する心情を育みたいと考えた。本校の資質・能力においては「多様性の尊重」の育成を目指した。

国語科では、「俳句の可能性」「俳句を味わう」の教材を用い、まず俳句の基本事項と鑑賞の仕方について学習を行った。美術科でTシャツのデザインをすることに意識付けをするために、選んだ俳句のイメージカラーを明示させた。また鑑賞文には、英語科で外国人留学生にTシャツをプレゼンテーションするというゴールに向けて、日本の伝統・文化や日本人のアイデンティティを踏まえ、選んだ俳句について海外の人に知ってほしい魅力をまとめさせた。選んだ俳句は、現代の日本人でも共感できる句であったり、現代の日本人であっても共感しづらい古き良き日本の原風景や感じ方が詠まれていたり、逆に時代や国に関係なく心に響く句であったりする。このような魅力を自分たちでデザインしたTシャツを通して、外国人留学生にプレゼンテーションするための一助となるよう、鑑賞文を書かせた。国語科の学習に続き、数学科では「標本調査」により外国人の趣味嗜好や実態の把握をさせ、美術科で俳句の魅力が伝わるようなデザインをさせ、英語科ではでき上がったTシャツを外国人留学生に紹介を行った。

3. 成果と課題

(1) 第1学年

1年生では、「本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力」における「デザイン思考」の取組として、「対話・交流を通じて自分の思いや考えを確かなものにすること」に重点を置き、実践に取り組んだ。

「祈りと願いの企画展」プロジェクトでは、社会科や美術科で学び、制作した「祈りや願い」を表す作品について、鑑賞者に提示する解説文を書く活動を行った。この実践では、作品の鑑賞者に対し、制作した自身の思いや意図をより明確に伝えるための表現や書き方について考えることを意図している。生徒らは解説文を書くにあたって「鑑賞者にどんな印象や気づきを与えたいか」「鑑賞者が解説文に求めるのはどんな情報か」といった、文章を読む対象や書くべき内容に対する理解を深めていく必要があり、そのための手順として「デザイン思考」のプロセスを踏まえることとした。

活動の導入として、解説文を書くための必要なことは何かを、県内の美術館や制作した画家本人による作品解説の分析を行った。この活動は、「デザイン思考」における「共感」にあたる。生徒は、作品解説が読み手に与える効果にまで考えを広げ、書くために必要な内容や表現を作品解説から読み取り、自分の解説文の構成を見直したり、鑑賞者が求める情報について考えたりすることができた。

作品の解説に書くことといえば… 実際の作品解説を読んで、 9 1 功 感じて頂ければ で言葉の と思う 解説文を書くための要素を考えよう 作者の 自分の作品の見て 欲しいアピールポ イントを書く 意図 な 24どういう意図 でこの形になっ たのかを明記す いまい

作品解説の分析を通しての、生徒が考える解説文の要点の変化

○解説文の分析による生徒の変容

生徒 N (分析前) (解説文には)自分の作品の見てほしいアピールポイントを書く。

→(分析後) 作者の意図について理解が深まるように、話し言葉を使って書く。

生徒 T (分析前) どういう意図で(作品が)この形になったのかを明記する。

→(分析後) 作品から感じ取ってほしいことのヒントを示し、少しあいまいに書くことで 読む人に考えさせる。

解説文が読み手に与える印象や効果を考えたうえで, 「制作者として読み手に伝えたい内容は何 か」を明確にし、「伝えたいことを効果的に表す表現は何か」を検討する活動を行った。これらは、 「デザイン思考」における「問題定義」と「アイデア創造」を意図している。生徒らは、書き手と 読み手両方の視点から、解説文に使いたい表現を用語集や作品解説から探し、吟味する姿が見られ た。読み手を具体的に設定した活動により、「書くこと」エの「読み手の立場に立って、表記や語 句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること」や「知識及び技能」ウの語彙の指導事 項を達成することができた。

夢を描く

望する

田に描く.想

吸い寄せ 集結七七百

強

快

伝えたい内容を表す表現を吟味する生徒の様子

自分の願いをより印象的に伝えるために,

- 「願い」に替わる表現として, 「望み」「祈り」「希望」など
- ・「願いを込める」や「イメージする」の 類語を検討している。
- 作品の情景が伝わる表現を探し、 分析してきた解説文から効果的な表現を参考に抜き出している。
- 「強い」印象を与える言葉を探し、解説文の 印象に合わせて、 カタカナ語から漢語や和語に切り替えている。

この後生徒らは、「デザイン思考」における「試作」「テスト」の取組として、解説文の下書き

を行い、自分たちが制作した「祈りと願いの造形」の制作物とあわせての鑑 賞を行い、解説文による印象の変化を確かめる活動を行った。作品単体での 印象と、解説文を合わせて鑑賞した際の印象を比べることで、自らが意図し た読み手の変化を達成することができているか、読み手が作品に対して知り たいと考えている情報が解説文によって補足できているかを確認し、お互い に助言を行った。展示を見る人により深く作品を理解してもらうだけでな く、読み手である鑑賞者の視点を取り入れながら自分たちの文章を吟味し、 助言し合うことで、「デザイン思考」のプロセスを体験しながら、文章をまと めることができた。また、読み手の立場に立って文章を整えることや、読み 手からの助言を踏まえ,自分の文章のよい点や改善点を見いだすといった,



国語科における「書くこと」の指導事項を,他 教科の知識や視点を交えた活動により育成する 実践とすることができた。

解説文を読む前との印象を比べ、作品の裏 側に描かれた「等」の漢字に言及したほう が,鑑賞者にも伝えたいことが伝わると助 言している。

の現状をし書いてあっ ئغ () あ 7 L る てあり べつめで、ヴラも、ナを見せればも、 剣 ti 現 も考 ウラも ŧ *b*/′

景がる人の

伍理 わる解

表深

現す

様子がえがかいていた大切の上

手に何

から

₽ 7

7

明

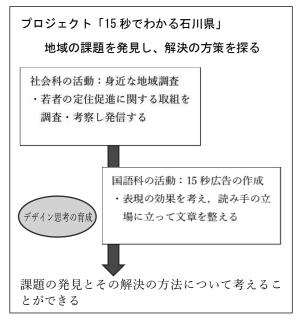
とらえては

Ħ

また今回のプロジェクトでは、解説文で伝えるために学習したことを、社会科・美術科での鑑賞 やレポートまとめの際において、再度活用するという機会を設定した。国語科での学習の成果を教 科の時間だけでなくプロジェクト全体で見て取り、評価していくための場面を、他教科と連携しな がら計画的に設定し検証していくことが今後の課題と考える。

(2) 第2学年

2年生では、本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力の育成に関して、「書くこと」との関連が深いと考える「デザイン思考」の育成をねらう実践を行った。社会科と連携し、プロジェクト「15 秒でわかる石川県」を計画し、国語科として全4時間の単元の実践を行った。生徒は国語科の学習の前に、社会科で身近な地域の調査として、石川県を取り上げ、若者の地元離れを防いだり、I ターン、U ターンを増やしたりする方策について考察した。若者を 15 歳から 22 歳と設定し、班で県内の市町村から一つを選び、各班で若者に向けて発信する資料をまとめる学習に取り組んだ。社会科の活動としては、石川県の人口に関わる課題解決に向けて、重要な事象をわかりやすくまとめることが単元の学習の



ゴールである。その活動をうけ、国語科では、「書くこと」B(1)ウ・エに関する学習を設定した。石川県の各地域に関して、社会科でまとめた課題やその解決につながる 15 秒広告をつくる単元とした。各自のタブレットを用いて、文書作成のアプリケーションを用いて、三枚の文書画面を作成し、動画作成のアプリケーションに取り込んで 15 秒の動画を作成する。公共の場でよく目にする「デジタルサイネージ」を参考に、若者の目を引いて、伝えたいことが伝わる 15 秒広告を作ることを目指した。デジタルサイネージとしての表現では「パッと見たときに、目を引く」「短時間で伝えたい内容が伝わる」の二つが重要であり、このような広告動画を目指すことをはじめに共通理解した。その上で、「①読む人の心をつかむ表

現を作る」「②伝えたい内容が伝わる表現を作る」の二つを目標として生徒に示した。これらのことを踏まえて、デザイン思考の5段階(p22)にそって、学習活動を考える時、本実践では、社会科の学習の中で、ステップ1・2の段階を行っていたと考えた。文章の読み手として、「15歳から22歳の若者」を設定したこともあり自分たちと年代が近い人たちに向けての発信となり、問題の定義は、比較的困難も少なく取り組んでいる様子が見られた。

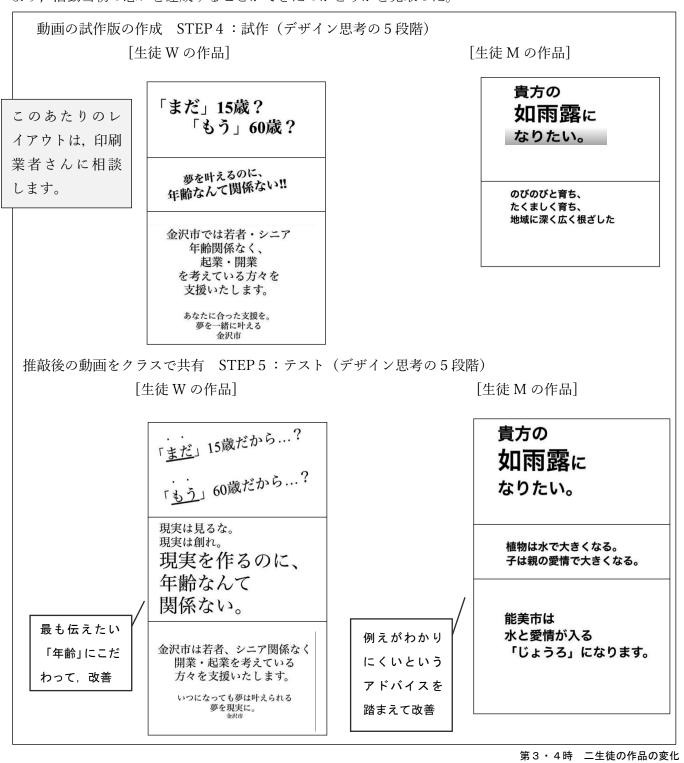
第1時では、生活の中にあるいろいろな広告にあたり、それぞれの広告が目指しているものを考えた。その広告が、具体的に、誰に何を伝えようとしているのかということについて考え、自分たちが広告として表現を考える時に、どのような工夫が必要なのかについて検討をする段階とした。第2時は、伝えたい

STEP 3: アイディア創造
(デザイン思考の5段階)
伝えたい内容を決め、表現の案を
練っている

1/11
伝えたい内容を決め、表現の案を
(表表とい内容を決め、表現の案を
(表表とい内容を決め、中ツチコピー・ボディコピーを考えよつ
(表表とい内容 (表表) (では、) (表表を) (表表と) (表表

内容を決め、文章を考える段階とした。伝える内容を具体化したり、抽象化したりする中で、適切な表現を探した。第3時は、試作版の動画を班で共有し、アドバイスをし合う段階とした。アドバイスを班のメンバーから集めた後、どのような効果を期待するのかについて常に意識する姿に「デザイン思考」が育まれている様子が見られたと考えている。本単元の学習に関して、設定した教科の目標については、試作版

や完成版の動画やワークシートより評価を行った。また、「デザイン思考」に関しては、全体の振り返りより、活動当初の思いを達成することができたのかどうかを見取った。



完成版の動画をクラスで共有している際に、社会科と連携した「15 秒でわかる石川県」のプロジェクトのまとめとして自分たちが作った動画の効果を実際に試してみたいという声が多く聞かれた。はじめの設定では、校内のディスプレーで表示するところまでを準備したのだが、実際に 15 歳から 22 歳の若者に動画がどう評価されるのかを試してみたいという意見もあり、生徒とともにそのような機会を探す

ことが、より実社会に開かれた学習となる契機となるであろうと考えている。

本単元全体のワークシートにおいて,活動を通してできるようになったことや,今後できるようにないりたいことについての記述が以下のようにあった。

【できたこと・できるようになったこと】

- ・今までは、いろいろな広告をぼーっと見ていたけれど、作ったひとがどんなことをねらったのか 考えるようになった。
- ・見る人の立場に立って、キャッチコピーを考えることができた。
- ・15 秒という短い時間で、まずは何を伝えたいか吟味した。
- ・15 秒を意識して、どれくらいのことが伝えられるのかの量を考えた。
- ・類語辞典を使って、使う言葉を試行錯誤した。
- ・短い言葉でずばっと伝える工夫ができた。
- ・いろんな広告を見て、目的を考えることができた。
- ・先生がよく言う「まとめて言うとどんなこと?」「例えばどんなこと?」「ひと言で言うと?」ということを、自分でしっかり考えることができた。
- ・押韻や繰り返しなどの、表現技法の効果がよくわかった。

【できなかったこと・今後できるようになりたいこと】

- ・どこかのデジタルサイネージに、出して反応を見てみたい。
- ・キャッチコピーのコンテストとかに出したらおもしろいかな、と思った。
- ・文字だけじゃなくて、イラストや写真とか、音楽なんかもつけたらもっと本格的になると思った。
- ・○○さんのキャッチコピーが衝撃的で、自分もそんなのを作りたかったけど、言葉が思いつかなかった。
- ・こんなキャッチコピーだけで、人の考えを変えたりできるのか、ギモン。

今回、設定した教科としてのねらいや「デザイン思考」の育成に関しては、「できたこと・できるようになったこと」にあるような記述等より、おおむね達成できたと考えている。一方、「できなかったこと・今後できるようになりたいこと」にあるように、学習活動と実社会とのつながりをより大切にすることを考えるためには、活動を教科・学校での学習で終わらせるのではなく、実社会・実生活とつなげていくことが欠かせない。今回の学習では、国語科としてのねらいを明確にするため、文字での表現にこだわり、表現の内容以外は、文字サイズとフォントのみ工夫してもよいとしたが、実社会の広告等では、文字以外にも、画像やアニメーション、音楽等の工夫が盛り込まれている。よりよい作品を作るために、文字以外の表現にも、いろいろな工夫を凝らしたいという生徒の思いは、自発的・意欲的に活動に取り組む姿勢からなるものであり、大切にしたい思いである。今後、教科としてのねらいを明確に持ちつつ、society5.0 で必要となる資質・能力を育成し、生徒の学ぶ意欲を伸ばす効果的な学習の構築を目指すためには、他教科等との連携の在り方について、さらに検討を重ねなければならない。

(3) 第3学年 「俳句の魅力を T シャツで外国人にアピールしよう」

国語科では、「俳句の可能性」「俳句を味わう」の教材を用い、まず俳句の基本事項と鑑賞の仕方について学習を行った。美術科でTシャツのデザインをすることに意識付けをするために、選んだ俳句のイメージカラーを明示させた。また鑑賞文には、英語科で外国人留学生にTシャツをプレゼンテーションするというゴールに向けて、日本の伝統・文化や日本人のアイデンティティを踏まえ、選んだ俳句について海外の人に知ってほしい魅力をまとめさせた。選んだ俳句は、現代の日本人でも共感できる句であったり、現代の日本人であっても共感しづらい古き良き日本の原風景や感じ方が詠まれていたり、逆に時代や国に関係なく心に響く句であったりする。このような魅力を自分たちでデザインしたTシャツを通して、外国人留学生にプレゼンテーションするための一助となるよう、鑑賞文を書かせた。国語科の学習に続き、数学科では「標本調査」により外国人留学生の趣味嗜好や実態の把握を、美術科で俳句の魅力が伝わるようなデザインを、英語科ではでき上がったTシャツについて外国人留学生へ紹介を行った。

国語科では、教材「俳句を味わう」からグループで1句を選び、読み取った情景や心情を踏まえ、クラスに紹介するスライドを作成した。その際の鑑賞文が資料1である。「私は、茅舎がいつ果てるか分からない命の中でも数々の名句を生み出した様子が儚くも輝く『露』と似ていると感じ、この句の奥深さや重みを感じました。」というように、読み取りはできているものの、他者を意識し、紹介する意識に欠けていた。そ

資料 1 第 1 次鑑賞文

(A) (a) (b)	1	La		15		T	177
ののかい	(JJ	3	15	13		私
句名あ	L	L	C	#,	5	4	17
001	17	+-	1	-14	7:	回	
100	'n	-	۲	垣		Par	
失とま	*1	Ľ.	4		ゃ	0)	9
海生す	5	#	蓉	3	か	藍	10)
t 27 °	11	Ē	金	#	な	C.	1
100 10 10	1	1-	12	7	1.	10	-
	1	-Silve	11	で	红	5	
重しは	É	歝	7	14	家	f,	ĺ١
HTC 7	极	th	0	7	0)	う	۲
女烘草	ı-	詠	-	金	あ	差	ŧΠ
成之在			45		7	7	
1020	, E.	#	128	岡	9	一大	な
C 21 11	₹.	M	,	4	\Box	で	11
主传!	2	た	E	0	金	は	4
100	10	去	烘井	۲	(H	,	が
7 2 4	1	g	311	<u>+</u>	- I		111
たり来		77-	3,1	2		儚	5
種で	制	(=	な	10	C	<	t
< 3		. `	碅	苯	取	絉	カ
っか		李	11	$\hat{1}$	1)	žim.	強
震分		7	-	-	7		74
	1	舍	E	_	0	ti	()
- h	4	77°	SF	牌	4)	=[]	俳
85	1	独	ι_{-1}	<	4	家	(e)
VIV 12	-	1	て	_	7	の	だ
77 13		-	ı,	3	-		
711	H			2		あ	な
11/2	L 1	F	බ	L	\$	S	2
30	<i>†</i> E	ίì	2	で	す	-7	思
	1	图	2	あ	9.	1	ιī
成大		24	Lh	7	夢		_
虎で しも		킞	1 11	ચ	-	-	\$
	7	77/	1)		61	を	
数	J	死	ħ١	6	13	便	1-
213	y	വ	1)		br	<	0
- Lund	7	-4	/ ;	7	4703	-	

こで、T シャツにデザインし外国人留学生へ紹介する俳句の鑑賞文については、読み取りに加え、 外国人留学生に紹介することを意識して鑑賞文を書くよう働きかけた。具体的には、その俳句 について以下の立場から俳句を評価することとした。

- 【ア】古き良き日本の伝統, 文化
- 【イ】現代にも通じる日本の伝統、文化や日本人としてのアイデンティティ
- 【ウ】万国共通の感覚, 感性

その結果,資料2のような鑑賞文となった。

【ア】この句の心情は現代の日本人、まして外国人にとって難解だ。その為この句を通して、外国人に日本の歴史を知って欲しい。

日本の文化を伝える良い句だと思う。

【イ】この句のような、団扇であおいで涼む習慣のない外国人には、この連想がなぜ起こったのかという理由と面白さは理解されないかもしれない。

日本人である我々は、四百年以上も前の句でもこの句が生まれた動機を即座に理解できるのである。

【ウ】この風景は、現代でも見つけることができる。だから、時を超えた今でも、共感を覚えることができるのだ。

世界共通の美しさだ。

この鑑賞文も踏まえて、ゴールとなる英語科でのプレゼンテーションで、外国人留学生に俳句 とその良さを紹介した。

資料2 第2次鑑賞文

h	美	て"	-	外	L	1=	鼰	田之	さ	tJ.	流	tI	1=	空	山山	詠	句	11	
t]	意	+	0	国	1=	١,	光	C	٤	佐	人	光	擬	r=	止	嘆		佐	松
H	散	3	右	L	2	0)	地	かり	天	渡	が	景	人	煌	め	0	0	渡	尾
本	٧	0	7	1=	2	句	٤	L	0	島	拘	を	法	do	1=	意	切	島	芭
0)	C.	夢	忘	日	17	0	し	1=	11	ŧ	東	巧	を	<	L	妹	n	۲	権が
文	7	さ	4	本	難	じ	7	9	0	朓	さ	妙	用	天	y	<i>#</i> \"	字	対	が
化	继	は	4	0)	解	腈	人	料	恒	8	北	v=	11	0	余	巡	0	配	秋
を	承	日	2	歴	H	は	気	0	久	,	×	猫	1	11	凊	め		的	夜
伝	さ	本	4	更	9	現	7"	佐	0	命	命	写	大	X	ŧ	6	や	tj	
之	H	古	7	を	7	代	歴	渡	輝	0)	艺	L	空	際	残	42	L	天	荒
ろ	V	来	前	知	0	0	史	島	*	夢	落	7	ι=	立	1	7	1=	0	北
良	١.	か	0	1	為	B	上	は	を	4	2	11	天	世	1	(1	よ	11	狂
y,	3	6	傍	1	2	本	0	現	rt		16	3	0	3	荒	3	y	ŧ	9
句	0	侘	A	欲	9	X	印	在	1	歷	t=	٠	11/	10	K	۰	荒	詠	日
た	2	U	13	4	何		象	1	芭	L"	0	佐	TO!	加	L	更	n	2	本
4	0	殺	\$	16	を	ま	X	自	在	t=	芭	渡	架	え	11	に	1=	だ	海
思	匈	V	7	0	通	U	逆	然	ij	2	奮	島	かり	7	日	結	B	0	1=
2	は	8	+	#	L	7	だ	豊	悲	7	は	7"	3	天	本	句	本	b\"	浮
0	8	11	产	t=	7	外	٥	か	痛	0	7	は	壮	0)	海	0	海	-	131
	7	2	原	,	1	国	故	+J	tj	夢	6	昔	大	11	0	体	に	0	暗

荒海や佐渡に横たふ天の河 松尾芭蕉

【ア】

向人芭はかだかをだろうる。表もののたう 機四を百 な起涼せ こむて 即年は すり しの俳はのともをもこかの大が想しら苦 座以な た慣る 9 0 L 山多之变 理もだ 3がは滑 解前 小外向 でのき句 国の 3 C' 6 理大子 とはな でこ ちの 月面 3 句 と か ま 生 3 の白二団 うな理想がない # ってなったを 2 1= はと

[1]

月に柄をさしたらばよき団扇山崎宗 宗鑑 か なか

プロジェクト後に、アンケートを実施した。 その結果が、グラフ1~3である。いずれの設 間に対しても、肯定的な感想を持った生徒は、 9割以上いる。また自由筆記欄には次のような 感想を述べている。

【国語の学習に関わるもの】

- ・日本についてどう思っているかを考えたこ とで特徴を理解し、日本の凄さなどが分か った。
- 俳句は日本の一つの素晴らしい文化であり その文化を他国の文化の人に紹介できたの で、とても良い時間になった。
- でりる」自な切自とて読上 お取りこ然、れ然芭菜み川ころで、のが感やの蒸え取とののうたで句読動倒姿はたれ次の まではは砂が置きころから いかがよこのの用町でくは 7 =" は海 ナニとり のを現流 だ川 でえて込 20 つてい題れ擬 思水 たもん 解あ が 材間る旅に が 対 る人体中景な田酒 旅に 法言にいらは田 今見で うの CAT 先特を日見な 加止泉 もける らみだしののらし、一 通 感とに 玄 たにたも 県 生そが生句のなる。まののきで奏む日生言だ生み町色の - 日 の 美 **入度没**於 覚でえ えきるる。 じ必の使 るる。ことだの ず瞬わ うと・コルークと・カーが 訪問北 とよ 方 りれをて とう たの句た がレ がかほ る切い

【ウ】

Ē を 海 に入 れたり最上 松尾芭蕉 加

- ・俳句を選ぶとき、どのような人気がありそうかなども調べることができた。
- ・俳句について詳しく調べ直したり、協力し合えたりした。
- ・順序立てて物事を設定していくことで、より明確な意見を主張したり話し合ったりすること ができ、とても俳句に関して深く考える機会になってよかった。
- ・俳句の魅力を伝えるためには何を言うべきかを考え、それをデータとも組み合わせて考え られたのでよかった。
- ・色々な俳句を知り、日本の俳句という文化は素晴らしいと改めて感じた。
- ・俳句と言えば昔の人が作っていたりするものだと思っていたが、現代でも大事なものになっ ているんだなと気づいた。
- ・俳句についての魅力を伝えるために、俳句について沢山調べたので、俳句への関心が高まっ た。
- ・俳句を外国の人たちに説明するとなったとき、自分たちも俳句について改めて学ぶことがで きたし、その魅力に気づくことができた。
- ・日本の文化である俳句にあまり関心がなかったけれど、今回のプロジェクトを通して俳句に ついて色々知ることができた。

【教科横断型 STEAM 教育に関わるもの】

- ・一つのプロジェクトに何教科も関わること で、教科のつながりを感じ、どの教科も将来 役に立つんだなということが実感できた。
- ・複数の教科を使ってプロジェクトを進めてい くのは難しかったけれど、こんな場面に今ま で習ったことが活かしていけるんだなと思っ た。
- ・複数の教科が合わさり一つの発表を作るとい う初めての経験だったので、すごく面白かっ た。
- ・複数の教科で同じ目的のために活動すること で、視野が広がったと思うし、いろいろな観 点から考えることができた。

アンケートから今回の取り組みを通して、俳句に対する興味・関心が高まり、より深く選んだ作句について調べたり、文章にまとめたりして語で、立る。しかし、その一方で、「正直、といえる。しかし、その一方で、「なからなからなからなからなり話した。」と言った意見ない。の言葉を重く受け止めればならの言葉を重くでいる。今回の実施もているとも考えられる。今回の実施もていた。「デザイン思考」での実施していた。「デザイン思考」での実施していた。「デザイン思考」での実施していた。「デザイン思考」での実施していた。「デザイン思考」での実施しているがら、図1のようになるだろう。ただし、「多様性の尊重」を育成しながら、鑑賞文を「書く」活動

グラフ1

留学生に俳句を紹介するというゴールを意識したことで俳句の詠み方は深まったか 1.5% ■とても深まった

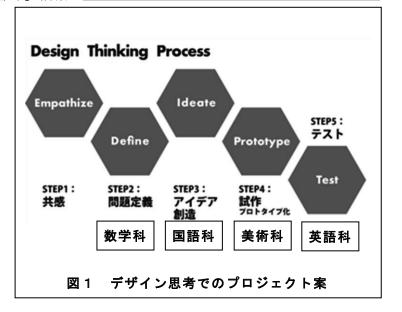
■深まらなかった

グラフ2

プロジェクトを通して、 俳句への興味・関心は高まったか 7.6% □ とても高まった □ 高まった □ 高まらなかった

グラフ3

プロジェクトを通じて、日本の文化・伝統や日本人としての人間性について自分なりの考えを持つことができたか2.3% ②とても持てた □持てた



(4) おわりに

今回 STEAM 教育の実践として、複数教科による教科等横断的なプロジェクトを作成し、その中で実社会での課題解決に生かした学習内容の実現を期して、それぞれの学年における研究実践で資質・能力の育成を図った。プロジェクトにおける国語科としての立ち位置は様々で、実社会での課題に対する問題提起を行うこともあれば、他教科における学びをふまえて自らの考えを表現する活動も行われた。総じて、国語科の目標である「人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」ことを、教科の枠にとらわれない課題や題材において実現できたことが成果と考える。例えば「話すこと・聞くこと」における根拠の適切さや論理の展開に注意して自分の考えを示すことについては、国語科の中で実践・育成することはもちろん、プロジェクトにおける他教材の学習活動でも関連づけ、活用していくことで、ねらいとする知識や技能のより深い定着を図ることができた。

また、複数教科による教科横断的なプロジェクトは、生徒の学習に対する意欲を高め、活動に 対する創意工夫を引き出すことも、実践の中で確認できた。それぞれの教科で学んだことを生かす だけでなく、解決すべき課題を見すえて、更に工夫できる点はないか、異なる手法やアイデアを活 動に組み込むことはできないかと試行錯誤する生徒の姿が見られ、創造的な問題解決能力の育成に も有効であったことが見て取れた。

一方で、プロジェクト全体における資質・能力の評価には研究の余地があると考える。「書くこと」を例に挙げると、国語科はもちろんそれぞれの教科で自分の考えを書き表す場面がある。その中で、国語科や他教科の活動を通じて、生徒の「書くこと」の力にどのような変容が見られたか。「書くこと」についての国語科での学びを他教科でも生かすことができているかを見取るには、プロジェクト全体を見通した指導の計画や評価の工夫が必要であると考える。

また個別最適化について、総論では「個別最適化した学習(各教科等)と協働的プロジェクト型学習(STEAM 教育)を二本柱とし、往還させる学習のシステムを構築する」とある。プロジェクト型学習が一定の成果を見せたところで、今後は特異な才能を有する生徒をどのようにして見取り、伸ばしていくのか教科としての関わり方を考えていく必要がある。個別最適化学習の在り方については、次年度以降の研究の課題である。

1年 単元名「作品の解説文を書こう」 プロジェクト名「祈りと願いの企画展」 単元計画 (3時間扱い) 本時は3時間目

		学習内容・ねらい (■)	 評価規準(○)3 観点【 】	本校が定める Society5.0		
次	時	子自り谷・445V・(■) 主な活動等 (丸数字)	計画成事 (○) 3 観点 【 】 指導上の留意点 (・)	を主体的に生きるための		
		土な伯男寺(凡奴十)	指等工の笛息点(*)	資質・能力		
1	1	■解説文の特徴を理解する。		「デザイン思考」		
		①学習の見通しを持つ。				
		②美術作品の解説文を読み、背景や観点な				
		ど解説文の要素を確認する。				
		③作品について最も伝えたい内容を決め,	○事象や行為、心情を表す語句に			
		その表現を考える。	着目し、語彙ノートに書き留め			
			ている。【知】			
	2	■解説文を書く。				
		①解説文の構成を考える。				
		○ 毎73× サッエ ⇒ セナ. ⇒ ノ	○ 学羽細暗に ※ ・ 一			
		②解説文の下書きを書く。	○学習課題に沿って,自分の思い が伝わる文章を書こうとしてい			
		 ③読み手の立場に立って文章を整える。	る。【態】			
		一切に立って入年を正んる。	つ。【版】			
	3	 ■解説文を読み合い,お互いに助言し合う。				
		 ①解説文のねらいを確認し,助言すべき内				
	本	容をつかむ。				
	時			↓		
		②解説文を読みながら、作品を鑑賞する。	・作品のみを鑑賞したときと、解			
			説文とあわせて鑑賞したときの			
			印象を比較し、その効果やねら			
			いの達成について考えるよう促			
		③鑑賞した内容を基に、助言し合う。	す。			
			○読み手からの助言を踏まえて,			
		④学習を振り返る。	自分の解説文のよい点や改善点			
			を見いだしている。【思】			
2	後	①解説文を清書する。				
	日					
		②解説文を作品とともに展示する。				
		 ③鑑賞会を行い,プロジェクトを通しての	○書も子に仁かる知道立について			
			○読み手に伝わる解説文について 考え, 自分の思いや意図を伝え			
		振り返りを行う。 	考え、自分の思いや息図を伝え ようとしている。【態】			
			よりこしている。【態】			

授業者	谷口 仁	授業クラス	1年1組~4組			
	プロジェクト名	教科等	F横断を図る教科等名と内容			
祈りと原	類いの企画展	社会科「身近な地域の歴史」 美術科「祈りと願いの造形」				
Soci	ety5.0を主体的に生きるための資質・能力	教科等	で身に付けたい資質・能力			
「デザ⁄	イン思考」		らの助言を踏まえて,自分の解 点や改善点を見いだすことがで 【思考・判断・表現】			

STEAM教育の視点

- ・社会科、美術科の学習を経て制作・展示する「祈りや願い」を主題とした作品に、自分の意図を 伝えるための解説文を書く活動を行う。
- ・この学習では「読み手に与える印象や効果を基に助言や推敲を行う」ことをねらいとしている。 社会科、美術科で学んだ各時代の人々の思いや意図など、各教科で学んだことを基に解説文とし て表現し、読み合う際の規準とする。これにより複数の教科等の資質・能力や見方・考え方の活 用を図る。また、読み手の印象や求めている情報を基に、自分の表現を見直し、改善方法を考え ていくことで「デザイン思考」の育成を目指す。
- ・展示の解説文という目的を踏まえた文章表現や構成の工夫まで考えさせたい。そのために、実際 の展示解説などとの比較を行い、その印象や特徴についても着目させる。

本時の授業のねらい

鑑賞する人に与える印象を考えて、解説文を読み合いお互いに助言し合う。

授業の流れ・活動等	時間
1. 本時の学習の目標と流れを理解する。	3
鑑賞する人に与える印象を考えて、解説文を読み合いお互いに助言し合おう。	
2. 解説文のねらいを確認し、助言すべき内容をつかむ。 ・解説文が作り手の意図やテーマ、見どころなど、自分の意図を明確に伝えるためのものであると同時に、鑑賞する人に与える印象や鑑賞者が欲する情報を踏まえているかどうかを観点として確認する。そのための表現や文章構成ができているかをあらかじめ押さえておく。	7
3. 解説文を読みながら、作品を鑑賞する。 ・作品のみを鑑賞した時と、解説文と合わせて鑑賞した時の印象を比較し、その効果やねらいの達成について考えるよう促す。	15
4. 鑑賞した内容を基に、助言し合う。 ・解説文によって印象が変わった点や理解が深まった点について話し合い、書き手の意図 が伝わったか、あるいは伝えるためにはどう改善すべきかを助言し合うよう促す。	20
5. 本時の振り返り。 ・助言を基に自分の文章について考えることができたか、鑑賞者の視点で解説文の内容や 表現について考えられたか、適切な助言ができたか等について、活動を振り返り、自己 評価する。	

2年 単元名「15 秒広告で石川の良さを伝えよう」プロジェクト名「15 秒で分かる石川県」 単元計画 (4時間扱い) 本時は3時間目

	1			_
次	時	学習内容・ねらい(■) 主な活動等(丸数字)	評価規準(○)3観点【】 指導の留意点(・)	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 資質・能力
	事前	気になる「キャッチコピー」を探し, 一人一枚の画像をクラウドで共有する。		
1	1	■広告の特徴や意味について知り、伝えたいことを整理する。①デジタルサイネージやキャッチコピーなどの特徴について知る。②石川県について、自分が伝えたいことを整理する。	○情報と情報との関係に注意して、伝えたいことを整理している。 【知】 ・商用のデジタルサイネージを提示し、その特徴を理解させる。 ・単元の学習の見通しを持たせる。	「デザイン思考」
	2	■15 秒広告 (スライド) を考える。 ①伝えたい内容を 15 秒で伝えられるような 文章を考える。 ② 2 ~ 3 枚のスライドにまとめる。	○目的を意識して、自分の考えが 伝わるように表現の仕方を工夫 している。【思】 ・キャッチコピー、ボディコピー を思い出させ、読む人の目を引 き、伝えたいことを伝えるため の文章になるよう意識させる。 ・今回は、言葉の表現に重点を置 くことを伝え、無地のスライド 2~3枚で表現することを伝え る。 ・文体、表現技法、語句などを工夫 し、読み手を意識した表現にな るよう考えさせる。	
	3 本 時	■作成した 15 秒広告 (スライド) を, 班で紹介しアドバイスし合う。①班員の広告を見て, アドバイスをする。②アドバイスを参考に推敲をする。	○目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章を整えている。【思】・実際の広告の場面を意識して、読み手への伝わりやすさについて、考えさせる。	
	4	■完成した 15 秒広告 (スライド) を班で発表し、代表作品を決める。 ①「目を引いたか」「内容が伝わったか」の 二点について、相互評価をする。 ②完成した作品を見て、学習を振り返る。	○作品の共有を通して、自分の考えが伝わる文章を整えようとしている。【態】・友人の作品のよい点や改善点を考えながら、自分の作品について振り返るよう促す。	•
	後日	校内二か所の電子掲示板を用いて,クラス の代表作の15秒広告(スライド)を公開す る。		

授業者	橋本 正恵	授業クラス	2年1組~4組		
	プロジェクト名	教科等	F横断を図る教科等名と内容		
15秒でタ	分かる石川県	社会科「身近な地域の調査」			
Soci	ety5.0を主体的に生きるための資質・能力	教科等	で身に付けたい資質・能力		
「デザ⁄	イン思考」		図に応じた表現になっている かめて,文章を整えることが 【思考・判断・表現】		

STEAM教育の視点

- ・社会科の学習「身近な地域の調査」で学んだ「石川の良さ」について、後輩(中学校一年生)に伝わるような文章(15秒広告)を作成する。
- ・近年,見かけることの多くなったデジタルサイネージの形式を採用し,「15秒でわかる石川県」の文章(広告)を作成する。キャッチコピーやボディコピーを取り入れ,どのような表現にすれば,読み手の目を引き,読み手に自分の考えが伝わりやすくなるのかを検討,試行錯誤し,作品を完成させる。クラスの代表となった作品は,校内の電子掲示板を使い,実際にデジタルサイネージとして,掲示する。文章(広告)が生み出す効果を実体験する機会としたい。
- ・社会生活で活用できる文章表現について、作成を通して、理解を深める。

本時の授業のねらい

作品の共有を通して,「読み手の目を引く」「考えが伝わる」の二点について,互いにアドバイスを行い,自分の考えが伝わる文章を整える。

授業の流れ・活動等 時間

1. 本時の学習の目標と流れを理解する。

読み手の「目を引く」「考えが伝わる」表現を目指して, アドバイスし合い,推敲をしよう

- 2. 「15秒広告」を紹介し、アドバイスをし合う。
 - 5人班を作る。
 - ・発表者はタブレットの画面に、「15秒広告」を映し、作品を紹介する。
 - ・見ている人は、読み手の「目を引いているか」「考えが伝わっているか」の二点について、アドバイスを行う。
 - •5人分のアドバイスの終了後,班員すべての作品を比較して,どのような広告が,より 目的を達成しているのかについて,考えを出し合う。
 - 各自の作品についての、感想やアドバイスをワークシートに記入する。
- 3. アドバイスを参考に、より良い「15秒広告」になるように推敲をする。
 - ・タブレットを用いて,推敲を行う。
 - ・どんな効果をねらって、どのように改善をしたのかをワークシートに記入する
- 4. 本時の振り返り
 - ・読み手の「目を引くポイント」, 「考えが伝わるポイント」について, 考えたこと, 分かったことをまとめる。
 - ・完成に向けて,工夫したことをまとめる。

「まだ」15歳? 「もう」60歳? 夢を叶えるのに、 年齢なんて関係ない!! 金沢市では若者・シニア 年齢関係なく、 起業・開業 を考えている方々を 支援いたします。 5

25

15

5

あなたに合った支援を。 夢を一緒に叶える 金沢市

3年 単元名「外国人に紹介したい俳句の世界」

プロジェクト名「俳句の魅力を T シャツで外国人にアピールしよう」

単元計画(5時間扱い)本時は5時間目

				1
次	時	学習内容・ねらい(■) 主な活動等(丸数字)	評価規準(○)3観点【】 指導上の留意点(・)	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 資質・能力
1	1	■俳句についての理解を深める。 ①プロジェクトについて理解する。 ②「俳句の可能性」の5句について,俳句の 基本事項と,情景や心情の読み取り方に ついて理解する。	・外国人が日本語のTシャツを着た様子を示し、日本の文化や伝統の良さを正しく伝えるためのプロジェクトであることを伝える。	
	2	■俳句に詠まれた情景や心情を読み取る。 ①「俳句を味わう」からグループで1句を選び、言葉や表現に注目し、情景や心情を読み深める。 ②読み取った情景や心情を踏まえ、選んだ俳句を紹介するスライドを作成する。	○俳句に表れたものの見方や心情について考えながら俳句をある。 について考えながら事をとを言葉をといる。 で伝えようとを言葉をしている。 「きしたで伝えようとしたり、情語の意味を理解したり、情語のではである。 「いて、神経をでいる。 でおいて、事籍ではないでは、はいいではいる。 ・作者やはいて、はいいではいる。 ・作者のようにないではいる。 ・作者のようにないではいる。 ・作者のようにないではいる。 ・作者のようにないではいる。	
	3	■選んだ俳句について紹介する。 ①選んだ俳句について,基本事項(作者,季 語,表現技法)と読み取った情景や心情に ついてスライドを使って紹介する。	○語句の選び方や表現の仕方に着 目して俳句を読み、評価してい る。【思】 ・俳句の特徴をイメージカラーで 表現させ T シャツ制作を意識 付けさせる。	
	4	■俳句を短冊に書く。 ①行書と,行書に調和する平仮名で俳句を書く練習をする。 ②体裁を整えて,短冊に筆ペンで書く。	○文字の大きさ、配列などについて理解し、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を意識し書いている。【知】 ・文字の大小や配置なども考慮することが全体の調和につながることを伝える。	
2	5 本 時	■俳句をグループで選び、読み取ったことをグループで共有し、鑑賞文に書く。 ①T シャツにデザインして外国人に紹介したい句を探し、読み取った情景や心情について、グループで交流する。 ②外国人に紹介することを意識し、鑑賞文に書く。	○俳句に表れたものの見方や心情につれたまながら俳句に表れたものの見方句を選択して考えたで伝えよううとを言葉をとして、考えたで伝えながら、進見がある。【態】 ○俳句を読んで考えを広げた自然である。【態】 ○俳句を読んで考えを広げた自然でありして、人間、社会、自分の意見をいて、人間、社会をはいる。【思】・感じたる。【思】・感じたく、さり感じた表現ではない。とものはないは今もあるという。というというという。 ・昔の日本の良さいは今もあるという。 ・おる、万国共通の良さい。 ・変賞文にまとめさせる。	「多様性の尊重」

実践事例

授業者	松原 美佳	授業クラス	3年1組~4組
	プロジェクト名	教科等	等横断を図る教科等名と内容
俳句の鬼	魅力をTシャツで外国人にアピールしよう	数学科「# 美術科「 <u>"</u> 英語科「]	『シャツ文字のデザイン』
Soci	ety5.0を主体的に生きるための資質・能力	教科等	で身に付けたい資質・能力
「多様性	生の尊重」	して, 人間	んで考えを広げたり深めたり , 社会, 自然などについて, をもつことができる。 【思考・判断・表現】

STEAM教育の視点

- ・日本の良さが伝わる俳句をTシャツのデザインで外国人に伝えることを意識させ,俳句から情景や心情を読み取らせていきたい。そのために,語句の選び方や特徴,表現技法等に着目させる。
- ・本プロジェクトは、まず国語科がTシャツのデザインの題材となる俳句の学習を行い、次に数学科が外国人の嗜好や日本に対するイメージを標本調査において明らかにし、美術科が国語科と数学科での学習を踏まえTシャツのデザインをし、英語科がデザインされたTシャツを外国人にプレゼンテーションする。単なる俳句の読み取りではなく、情景や心情の読み取りを通じて改めて感じた日本の素晴らしさをデザイン化し紹介するというゴールを設定することで、相手意識を持って俳句を深く読み取り、鑑賞文を書くことができると考える。

本時の授業のねらい

俳句から読み取った情景や心情をグループで共有し、その俳句から日本の良さや日本人のアイデンティティについて考えを深め、鑑賞文に書く。

授業の流れ・活動等	時間
1. 本時の学習の目標と流れを理解する。	2
日本の文化や伝統の良さを正しく伝えるためにTシャツのデザインとしてふさわしい俳句を探し、その鑑賞文を書こう。	
2. Tシャツにデザインして外国人に紹介したい句を、書籍やインターネットを活用し、グループで1句選ぶ。 ・複数の書籍などを読み、自分の感じ取った情景や心情に近いものを探すように伝える。	2 8
3. 情景や心情について,グループで読み取った交流する。 ・感じたことや想像したことだけではなく,そう感じた表現や特徴を明らかにして,読み取りを交流させる。	15
4. 外国人に紹介することを意識し、鑑賞文に書く。 ・外国人に紹介するにあたって、古き良き日本の良さなのか、現代日本にも残る日本の良さなのか、あるいは日本人のアイデンティティなのか、外国人にも共感できる日本の良さなのかを考え、鑑賞文に書くことを意識させる。	
5. 本時の振り返り ・この時間に鑑賞文を書けない場合は、夏休み中の宿題とする。	2